

2021年7月24日(土)

旧東海道ブラ歩き(6) 湯本—甘酒茶屋

前は丁度一月前の6月24日に戸塚から辻堂まで歩いたが、その後梅雨に入り、さらに梅雨明けと共に激しい暑さが続いていたこと、そして家内が歩行中に転倒して暫く体の痛みを感じていた事から暫く東海道ブラ歩きを休止していた。その間に閃いたのが箱根ならば夏でも涼しいのではないかという事で、辻堂から湯本までは後回しにして本日湯本から芦ノ湖までを目指して歩いたが、芦ノ湖まであと3kmの甘酒茶屋でリタイヤしバスで湯本に引き返し、富士屋ホテルで温泉につかり、ロビーでゆっくりお茶を飲んで19時15分に帰宅した。歩数は23300歩あまり。今回は難所の箱根越えという事で安全を考え長女の園子に同行を依頼、最後の方で我々夫婦は相当バテていたが、娘のお陰で何とか甘酒茶屋までたどり着いた次第。

朝7時10分西大井発の電車で品川へ、ここで園子にあって3人で新幹線に乗り8時過ぎに小田原着、小田急ロマンスカーで湯本に8時20分着、そこから少し戻った湯本の3枚橋から早川を渡って8時45分に箱根旧街道に沿ってスタートした。この道は国道1号線からは離れており、塔ノ沢、大平台、宮ノ下、小涌谷などとは全く交差しない道である。とはいえ芦ノ湖までのかなりの部分は自動車道を歩くので車のすれ違いの度に道の端によって車をやり過ごすという不便はあった。しかし途中何度も車道を離れて江戸時代の道を歩く。最後の方は専ら石畳だ。流石は箱根で、この間は涼風が吹いて結構涼しい。

9時に駆け込み寺の早雲寺に到着(写真1)。ホテルはつはな、鎮雲寺(写真2)等を経て11時25分畑宿に着く。所要時間2時間40分。この道は車でも通った事がないが、道沿いに結構宿がたくさんある。中には軽井沢の星野温泉の宿もあった。畑宿は箱根細工の店があると期待していたが、コロナの影響で多くの店が閉まっている。ここで昼食を予定していたが店がしまっていて当てが外れる。公衆トイレがあったので用を足し、上畑宿に向けて出発。暫くすると江戸より23里の一里塚を通過(写真3)。ここまでは家内と小生は元気だったが、自動車道を外れて石畳になるとそもそもでこぼこしていて歩きにくい、それに加えて車道が七曲がりになっているところを石畳の道は長い急な階段を直線で上って近道をするので、その階段がかなりきつい。このあたりから我々夫婦は遅れがちになるが娘が引っ張ってくれる(写真4)。また、娘の指導で、やたらと虫除けや日焼け止めのスプレーをかけられる。長い直線階段の上りは、右足、左足という具合には行かず、先ずどちらかの足を一段上にかけて、しかる後残りの足をそこにそろえる。これで一段上り、一呼吸置いて次の段にかかるといふ状況になってくる。手すりがあるところは家内はそれにしがみついて登り、小生は杖にすがって登るといふ訳で(写真5)、なかなか前に進まない。ついには階段に座り込む(写真6)。最後の方では猿滑坂などという物騒な坂まで出現する(写真7)。流石に天下

の険だ。不思議な事にこれだけゆっくり進んでいるのに階段の途中で追い越されたのはたった二組だ。この炎天下にわざわざ登山をする人が少ないのだろう。しかし彼らは若いのでスピードが全然違う。瞬く間に見えなくなる。

畏友の吉田さんは大磯を朝出て畑宿まで 1 日で行き、一旦帰京のうえ後日畑宿発で箱根を通り越して沼津まで一日で歩くという健脚ぶりであるが、普段近所を散歩しているだけの我々には到底これは出来ない。実は今日はいまうまくいけば箱根を登り切って芦ノ湖に行き、湖畔の箱根ホテルに一泊するつもりで着替えや洗面用具を持って出たが、だんだん初志貫徹に暗雲が湧いてくる。もっとも老年の我々がスイスイと頂上にたどり着いてはお天道様に申し訳ないというものだ。甘酒茶屋まであと 1.5km の標識が出ているが一向に着かない。畑宿を出発して 2 時間半後の 13 時 55 分、やっとの思いで甘酒茶屋に着く。娘曰く、ガイドブックの目安で 2 時間と書いてあるところを我々は 5 時間かかったと。娘がいなければとっくの昔に **Retire** のところだった。普段背負わないリュックに結構重いものも入れているので、階段の登りでうっかりすると後ろにひっくり返りそうになる。また、長い急階段の途中で息切れがするので倒れてはいけないと思い深呼吸をして体調を回復する。朝新幹線の中でパンを食べて以来固形物を口に入れていない。歩行中は熱中症を防ぐために娘の注意で 15 分に一回くらいの割合で水分を補給する。家から持参した **Marco Polo** の紅茶がこれほどおいしいものとは知らなかった。ずいぶんの量を飲んだが全部汗に出てしまったようだ。甘酒茶屋では力餅と甘酒に舌鼓を打ったものの、家内と小生は暗黙のうちに今日はここで打ち切りの合意が成立。丁度来合わせた 14 時 10 分のバスで湯本に向かった。

バスに乗った途端左の股の辺りがつり、何とか我慢をしていると今度は右がつる。こんなに痛いとは思わなかったし、そもそも足がつったのは初めてだ。湯本でバスを降りると家内も足がつってまっすぐには歩けない。それでは温泉で一休みしようというので、再び早川を渡り富士屋ホテルで温泉につかる。着替え室にレモン水が置いてあったので 3 杯も飲んだが全て吸収される。やはり水分がかなり減っていたのだと思う。あとで家内と娘に聞いたら、家内は更衣室から浴槽に行く途中で再度足がつり、娘の手助けを受けたそうだ。その後ホテルの喫茶室で 1 時間近く休憩を取り、16 時過ぎにホテルを出て湯本駅まで戻り、娘は急ぐというのでロマンスカーと新幹線の乗り継ぎで先に帰り、我々は普通電車で小田原まで出て、東海道線に乗った。ところが小田原駅での乗り換えで今度は小生の足がつり、足を引きずりながら乗り換えた。東海道線では鴨宮、国府津、二宮、大磯のあたりはすぐ側に海が見える。いずれこのあたりも歩くので、景色が楽しみだ。帰宅後食事中またもや左足がつって参った。

次回は若干の日を置いて今回飛ばした辻堂から湯本までを何回かに分けて歩くつもりだ。それを済ませたあと、今度はバスで甘酒茶屋まで行き、残り 3km を歩いて箱根を完全制覇

し、更に三島、沼津を目指す。こちらは下りの道がどんなものか一寸心配だ。この辺りは吉田大兄によく聞いてから決行予定。



写真1 早雲寺



写真2 鎮雲寺



写真3 石壘 歩きにくい



写真4 娘の助けを借りて登坂



写真5 石段登り（これは短い方）



写真6 途中座り込んで英気を養う



写真7 猿滑坂